

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：社会芸術・寺山支部 炭焼の会

26A-25

代表者：支部長 萩原 哲哉

URL : <https://artngo16.wixsite.com/socialart>

1. 活動が必要とされた状況

社会芸術が見沼・さぎ山地区で活動を始めた 2016 年には、すでに「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」（1995 年）が制定されていた。地域の農・環境活動の諸団体からは「創造」分野の役割が切望された。2016 年「TANBO プロジェクト」、2017 年「野良の藝術」を開催した。農林残渣を原料にする炭窯を設置し、「炭焼の会」を結成した。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 炭焼の会とユニット・ウルスとで「野良の藝術 2023 大地の鼓動」（10/21～11/12 延約 500 人）を共催。大規模な燻炭焼「大地の狼煙」（①）では、米国西海岸と同時着火により国際性を高め、谷田貝光夫氏の講演により学術的にも強化した。また、「大地の風・ゲル」（②）では、市街地の浦和駅前からスタートし、寺でのシンポジウムを経由し、さらに見沼・さぎ山の「秋フェス」と「現場展」へと、都市民の注視を促した。
- ・ 平時の活動としては、畑地での農耕「実験農場」が試される。自ら栽培した大豆で上記の「現場展」において「豆腐作りワークショップ」を実施した。年末には麦を蒔く。さらに、煉瓦造りが開始され、次年度の竈づくりへの準備が進められている（③）。



① 田んぼで大規模な燻炭焼き



② 「秋フェス」ゲルを運ぶ市民



③ 煉瓦造り：コンクリートミキサー使用

3. 活動の成果

「野良の藝術」を地球環境の恩恵として捉え、様々な問題を有機的に結びつけて解決を考えることができた。「野良の藝術」の実施により、燻炭焼きの手法は強化され、全ての場面で野良の思想を徹底させることができた。また、念願の「秋フェス」との合同開催や海外との交流の実現などにより、都市住民を見沼へと誘い、市民とのコミュニケーションも闊達となった。

4. 今後に残された課題

我々は炭焼や燻炭焼を行いつつ、農と食、環境の諸問題を芸術活動に重ねて取り込んでいる。また、バイオ炭や堆肥、木酢液、土壌菌などを活用して土壌回復を図る里山農を目指している。そのためには、①恒常的な農耕地を獲得し、里山農を实践、②放置された渋柿から柿渋の採取、③農作業に有用施設（ビニールハウス）の設置、④竈づくり、が課題となっている。